

I. 2020年度の概要

1. 事業について

- (1) 公益財団法人第一三共生命科学研究振興財団は、「生命科学特に疾病の予防と治療に関する諸分野の基礎的研究並びに臨床への応用的研究を奨励することにより、この分野の学術の振興を図り、もって、人類の健康と福祉の増進に寄与する」ことを目的として、2010年10月1日に公益財団法人へ移行し、定款に定める事業を開始した。この事業報告及び決算報告書は、2020年4月1日から2021年3月31日までの期間についての当法人の事業活動をとりまとめたものである。
- (2) 2020年度は、第一三共株式会社からの寄附金収入、基本財産の運用収入並びに前年度からの繰越金を活用し、以下のとおり、公益目的事業を助成事業（公1）並びに研究業績褒賞事業（公2）に区分して実施した。

助成事業 (公1)	1. 研究助成 (1) 研究助成 (2) PIセットアップ研究助成 2. 海外共同研究支援助成（本年度休止） 3. 研究会・シンポジウム開催助成（本年度休止） 4. 海外留学奨学助成
研究業績褒賞事業 (公2)	1. 研究業績褒賞（第18回高峰記念第一三共賞） 2. 褒賞受賞研究テーマに関連するシンポジウム開催（第37回高峰カンファレンス）（本年度休止）

- (3) 本年度は、隔年度実施の助成事業の内、PIセットアップ研究助成を実施し、海外共同研究支援助成及び研究会・シンポジウム開催助成は休止とした。

2. その他について

(1) 指定寄附金収入

第一三共株式会社より2020年4月10日、指定寄附金として1億5千5百万円を受領した。

(2) 主要事業活動報告

- ①2020年5月21日の第21回選考委員会にて、2020年度PIセットアップ研究助成の候補者並びに第18回高峰記念第一三共賞二次候補者の選考を行った。
- ②2020年7月28日の第18回高峰記念第一三共賞審査委員会にて、同賞の最終候補者を決定した。
- ③2020年8月21日の第38回理事会にて、2019年度の事業報告及び決算報告書、2020年度PIセットアップ研究助成者の決定、第18回高峰記念第一三共賞受賞者の決定、任期満了に伴う理事候補者推薦、任期満了に伴う選考委員改選、2019年度内閣府

立ち入り検査への対応に伴う規定等の改定、事業見直しの件、「評議員会の日時及び場所並びに目的である事項」の各件について審議され、承認された。

- ④2020年9月8日の第14回評議員会にて、2019年度決算報告、任期満了に伴う理事改選、評議員選任・辞任、役員及び評議員の報酬等並びに費用に関する規定改定の各件について審議され、承認された。
- ⑤2020年9月9日、内閣府に2019年度事業報告等を提出した。
- ⑥2020年9月16日のみなし決議による第39回理事会にて、理事長・常務理事及び顧問を選定した。
- ⑦2020年10月5日、内閣府に理事・評議員変更の届出を提出した。
- ⑧2020年10月22日、内閣府に役員・評議員に対する報酬等の支給基準変更の届出を提出した。
- ⑨2020年11月6日の第22回選考委員会にて、2020年度研究助成候補者及び2021年度海外留学奨学研究助成候補者の選考を行った。内、2021年度海外留学奨学研究助成については、候補者の上位者5名について常務理事が面接を実施し、最終候補者（5名）を選出した。
- ⑩2020年12月4日の第40回理事会にて、2020年度研究助成者決定、2021年度海外留学奨学研究助成者決定、事業見直し、高峰記念第一三共賞審査委員会委員の選任、2021年度事業推薦・応募要領、助成（褒賞）候補者推薦依頼先の各件について審議され、承認された。
- ⑪2021年2月18日のみなし決議による第41回理事会にて、2021年度事業計画、収支予算並びに資金調達及び設備投資の見込みについて審議され、承認された。
- ⑫2021年2月26日、内閣府に2021年度事業計画書等を提出した。

(3) 人事関係

- ①2021年3月31日現在の関係者の人員数について、役員は、理事の任期満了に伴う改選が行われ、理事16名、監事2名。評議員は10名（前期比1名増）。選考委員は、任期満了に伴う改選が行われ、20名。研究業績褒賞に係る審査委員（高峰記念第一三共賞審査委員）は7名（前期比1名増）。顧問は8名、職員は2名（前期比1名減）。
- ②理事長について、みなし決議による第39回理事会（2020年9月16日）において、眞鍋淳理事が選定され9月16日付で重任した。同時に、常務理事について高橋正明理事が選定され重任した。
- ③理事について、任期満了に伴う改選が行われ、9月8日付で、荻原俊男理事、堀田知光理事が退任し、新たに選任された金田安史氏、森郁恵氏を含む16名が就任した。
- ④評議員について、9月8日付で、新たに選任された荻原俊男氏、堀田知光氏が就任

され、中西重忠評議員は任期途中で辞任した。

- ⑤ 高峰記念第一三共賞審査委員について、新たに選任された稲葉カヨ氏が12月4日付で就任した。
- ⑥ 選考委員について、任期満了に伴う改選が行われ、8月21日付で、金田安史選考委員長、森郁恵選考委員が退任し、新たに選任された大隅典子氏、菊池章氏を含む20名が就任した。
- ⑦ 顧問について、評議員を辞任した中西重忠氏が9月16日付で就任した。
顧問の杉村隆氏が9月6日に逝去された。
- ⑧ 職員について、第一三共株式会社から出向していた山田国夫氏が5月31日付で退職した。

(4) その他

2020年度の各種会議体は新型コロナウイルス感染防止のため、理事会については第38回（8/21）・第40回（12/4）をWeb会議にて、第39回・第41回をみなし決議にて実施した。第14回評議員会（9/8）についてはWeb会議にて実施した。選考委員会については、第21回（5/21）・第22回（11/6）ともにみなし決議にて実施し、第18回高峰記念第一三共賞審査委員会（7/28）については電話会議にて実施した。

また、研究褒賞事業である第18回高峰記念第一三共賞贈呈式並びに受賞研究テーマに関連するシンポジウム(高峰カンファレンス)を休止し、第19回高峰記念第一三共賞贈呈式と合同で開催することへ変更した。

Ⅱ. 2020年度事業報告

1. 事業の総括

	事業	金額	備考
助成事業 (公1)	1. 研究助成 (1) 研究助成 (定款第4条 (1))	54,000千円	2019年度 @100万円×29件 2020年度 @100万円×25件
	(2) PIセットアップ研究助成 (定款第4条 (1))	18,000千円	@300万円×6件
	2. 海外共同研究支援助成 (定款第4条 (2))	-千円	@50万円/件 (本年度休止)
	3. 研究会・シンポジウム開催助成 (定款第4条 (3))	-千円	@50万円/件 (本年度休止)
	4. 海外留学奨学研究助成 (定款第4条 (4))	29,500千円	2019年度* @300万円×1件 @50万円×6回×1件 @50万円×2回×1件 @70万円×6回×2件 2020年度* @50万円×6回×4件 @70万円×3回×1件
	その他助成事業費	17,127千円	印刷製本費、諸謝金、賃借料、ビル共益管理費等
	助成事業計	118,627千円	
研究業績褒賞事業 (公2)	1. 研究業績褒賞 (定款第4条 (5))	10,000千円	第18回高峰記念第一三共賞
	2. 研究業績褒賞受賞研究テーマに関連するシンポジウム開催 (定款第4条 (5))	-千円	第37回高峰カンファレンス (本年度休止)
	その他研究業績褒賞事業費	3,470千円	諸謝金、賃借料、減価償却費、ビル共益管理費等
	研究業績褒賞事業計	13,470千円	
合計		132,097千円	

*2019年度・2020年度は留学先の要請による300万円一括交付や留学先での適正賃金の限度内で他財団からの助成金との重複受給を可能にするために助成金交付金額などの交付方法を変更した。また、新型コロナウイルスの影響等により途中帰国者が2019年度・2020年度共に1名ずつ発生し助成金の交付を中断した。

2. 助成事業 (公1)

2.1 研究助成 (定款第4条 (1))

(1) 概要

当事業は、生命科学特に疾病の予防と治療に関する諸分野の基礎的研究並びに臨床への応用的研究に従事する研究者に対して、助成を行うことにより、学術及び科学技術の振興を図ることを目的としている。

(2) プログラム：研究助成はふたつのプログラムよりなる。

①研究助成

②PIセットアップ研究助成

(3) 募集対象

①研究助成

日本国内在住の生命科学分野を専攻し、優秀かつ最先端の研究をする50歳未満（2020年4月1日現在）の研究者

②PIセットアップ研究助成

(a) 研究責任者（PI）として、実施前々年度、実施前年度に、原則、研究機関間の移動を伴って日本国内で新たに研究ユニットを立ち上げた、或いは実施年度に立ち上げ予定の研究者。申請時点で海外滞在者を含む。

(b) 研究ユニット立ち上げに必要な研究用汎用機器及び備品類の購入可

(c) 当法人の他種助成金と重複して助成を受けることが可

(d) 45歳以下（2020年4月1日現在）の研究者

(4) 募集規模

①研究助成

(a) 1件当たり200万円（助成期間は、2020年度以降2年間）

(b) 採択件数：新規25件以内（継続分も含め、原則、55件以内）

②PIセットアップ研究助成

(a) 1件当たり300万円（助成期間は、2020年度以降3年間）

(b) 採択件数：新規6件以内

通常5件以内だが、2018年度海外留学奨学研究助成に1名欠員が出たため、その未使用予算600万円は2018年度及び2020年度PIセットアップ研究助成の採択枠増に当て、各々1名増の6名とすることが第29回理事会にて承認された（2018年2月2日）。

(5) 募集方法

当法人ホームページにて応募要領を掲載し、理事会において指定された全国の生命科学分野の大学大学院研究科長、研究機関長並びに当法人の評議員、理事、顧問及び褒賞受賞者（高峰記念三共賞・高峰記念第一三共賞）宛にポスター等送付し募集する。

(6) 応募方法

①理事会において指定された全国の生命科学分野の大学大学院研究科長、研究機関長並びに当法人の評議員、理事、顧問及び褒賞受賞者（高峰記念三共賞・高峰記念第一三共賞）を推薦者として、応募要領、応募者選定ガイドライン、所定の推薦書を送付する。

②応募者は、上述の推薦者に推薦を依頼する。

- ③推薦者は、応募者の中から応募者選定のためのガイドラインに基づき、原則1名を公正かつ適正に選定する。
- ④応募者は推薦書を取得後、当法人ホームページの助成Web登録システムを通じて、推薦書及び申請書等をデータ送信する。送信された申請書類を当財団にて確認後、申請者に申請を受付けた旨の連絡を行い、受付番号を交付する。
- ⑤応募期間
- (a) 研究助成：2020年4月1日～6月30日
- (b) PIセットアップ研究助成：2020年1月15日～2月29日
- ⑥応募件数
- (a) 研究助成：194件
- (b) PIセットアップ研究助成：84件
- (7) 選考方法
- ①研究助成
- 第22回選考委員会による選考結果をもとに、第40回理事会にて25名の助成者を決定した。
- (附属明細書 [資料-1]：2020年度当該助成採択者参照)
- ②PIセットアップ研究助成
- 第21回選考委員会による選考結果をもとに、第38回理事会にて6名の助成者を決定した。
- (附属明細書 [資料-2]：2020年度当該助成採択者参照)
- (8) 助成金の交付
- ①交付方法：原則、所属機関の研究奨学金口座を通じて交付する。
- ②交付時期
- (a) 研究助成：2回に分けて交付する（100万円/年度）。
初年度：2021年1月20日～2月20日に交付
次年度：2021年秋頃までに交付予定
- (b) PIセットアップ研究助成：一括交付する（300万円）。
2020年11月20日に交付
- (9) 研究成果の公表
- ①助成者は、助成期間終了後、成果論文を当法人に提出する。
- ②助成者は、助成期間終了後、収支決算報告書を当法人に提出する。
- ③助成者の成果論文をもとに研究報告集を作成し、当法人関係者、助成者並びに大学等研究機関の図書館に寄贈する。なお、本年度は、研究助成、海外留学奨学助成の助成者の成果論文について、当該報告集Vol.36として2020年10月31日に発刊し、109箇所寄贈した。

④助成者の氏名、研究テーマを当法人ホームページに掲載した。

2.2 海外共同研究支援助成（定款第4条（2））（本年度休止）

(1) 概要：海外の研究機関と共同研究を実施している研究者に助成を行う。

(2) 募集対象

①海外の学者との共同研究を行っている、日本国内在住の生命科学分野を専攻する研究者で、海外の研究者との共同研究を目的とした海外渡航、或いは海外の研究者を招聘する者

②助成対象期間：実施年7月1日から同翌々年6月30日に実施するもの

③実施年度4月1日現在で50歳未満の研究者

(3) 募集規模

①1件当たり50万円

②採択件数：研究会・シンポジウム開催助成と併せて10件以内

(4) 募集方法：「研究助成」と同一

(5) 応募方法

①応募方法は「研究助成」と同一

②応募期間：実施年1月15日～2月末日

(6) 選考方法

選考委員会による選考結果をもとに、理事会にて助成対象者を決定する。

(7) 成果：実施終了後、実施報告書及び収支決算報告書を提出する。

2.3 研究会・シンポジウム開催助成（定款第4条（3））（本年度休止）

(1) 概要：萌芽的な研究をテーマとした、国際シンポジウムを対象とする助成である。

(2) 募集対象

①生命科学分野に関する国際シンポジウムの中で、過去に海外で開催され、助成対象期間に日本にて開催される国際シンポジウムの開催助成

②当該研究会・シンポジウムの規模は、国内・海外合わせて参加人員500名以内程度で、他の団体より大型の寄付を受けていないもの

③助成対象期間：実施年7月1日から同翌々年6月30日に実施するもの

(3) 募集規模

①1件当たり50万円

②採択件数：海外共同研究支援助成と併せて10件以内

(4) 募集方法：「研究助成」と同一

(5) 応募方法

①応募方法は「研究助成」と同一。但し、推薦書は不要。

②応募期間：実施年1月15日～2月末日

(6) 選考方法

選考委員会による選考結果をもとに、理事会にて助成者を決定する。

(7) 成果：実施終了後、実施報告書及び収支決算報告書を提出する。

2.4 海外留学奨学研究助成（定款第4条（4））

(1) 概要

海外の研究機関にて一定の期間研究に専念する優秀な若手研究者に奨学研究助成金を交付する。

(2) 募集対象

①原則、日本国籍を有し、生命科学分野を専攻する研究者で、年齢が35歳以下である者。なお、6年制学部卒業者は37歳以下（2020年4月1日現在）である者

②海外の大学等研究機関において、1年間以上研究に従事することを計画している者

(3) 募集規模

①1件当たり600万円（助成期間は、2021年度以降2年間）

②採択件数：5件以内

(4) 募集方法：「研究助成」と同一

(5) 応募方法

①応募方法は「研究助成」と同一

②応募期間：2020年4月1日～6月30日

③応募件数：56件

(6) 選考方法

①第22回選考委員会による選考結果をもとに、候補者を決定。その後、1名の辞退があったため、選考委員会にて承認された手続きに則り順次繰り上げ、上位者5名を候補者とした。

②常務理事が候補者の面接を実施し、最終候補者（5名）とした。

③第40回理事会にて5名の助成者を決定した。

④その後、1名の辞退者があったため、理事会にて承認された手続きに則り、順次繰り上げて常務理事が面接を行い採択とした。

（附属明細書〔資料-3〕：2021年度当該助成採択者参照）

(7) 交付時期

2021年4月より原則年6回、2ヶ月毎に50万円を助成者の指定銀行口座へ入金する予定

(8) 研究成果の公表：「研究助成」と同一

3. 研究業績褒賞事業（公2）

3.1 研究業績褒賞（定款第4条（5））

（1）概要

当事業は、生命科学特に疾病の予防と治療に関する諸分野の基礎的研究並びに臨床への応用的研究の進歩発展に顕著な功績をあげ、現在活発な研究活動を行っており、今後も一層の活躍が期待される研究者に対する褒賞を実施する。

（2）褒賞名：第18回高峰記念第一三共賞

（3）褒賞対象者

生命科学特に疾病の予防と治療に関する諸分野の基礎的研究並びに臨床への応用的研究において、その進歩・発展に顕著な功績をあげ、現在活発な研究活動を行っており、今後も一層の活躍が期待される日本国内在住の研究者

（4）推薦方法

①理事会において指定された全国の生命科学分野の大学大学院研究科長、研究機関長並びに当法人の評議員、理事、顧問、選考委員及び褒賞受賞者（高峰記念三共賞・高峰記念第一三共賞）に推薦を依頼した（但し、高峰記念第一三共賞審査委員は推薦者より除く）。

②推薦期間：2020年1月15日～2月29日

③推薦件数：19件

（5）選考方法

①第一次選考

第21回選考委員会にて推薦候補者の選考を行い、5名の候補者が第二次候補者となった。

②第二次候補者に対し、応募の意思の確認及び応募申請の要請を行った。

（6）最終選考

①第18回高峰記念第一三共賞審査委員会は、応募申請書及び選考委員会結果を参考に審査基準に基づき審議し、最終候補者を選定した。

②第38回理事会において、褒賞受賞者を決定した。

③受賞者名、受賞研究テーマ、受賞理由を当法人ホームページにて掲載するとともに、当法人出捐会社の第一三共株式会社のホームページに掲載した。

（7）受賞者及び受賞研究テーマ

①受賞者：岡野 栄之博士（慶応義塾大学 大学院医学研究科委員長）

②受賞研究テーマ：「神経幹細胞の基礎研究と臨床応用」

（8）褒賞の方法及び贈呈

①副賞（1,000万円）を贈呈した。

②贈呈式は新型コロナウイルス禍の影響により延期し、第19回高峰記念第一三共賞

贈呈式と合同開催へ変更した。

3.2 研究業績褒賞受賞研究テーマに関連するシンポジウム開催（定款第4条（5）
（本年度休止）

(1) 概要

高峰記念第一三共賞受賞者の業績を記念したシンポジウムを開催し、学术交流の場を提供することにより、研究の振興並びに若手研究者の養成を図る。

(2) 名称：第37回高峰カンファレンス

(3) 開催方法：新型コロナウイルス禍の影響により、本年度は休止とした。

以 上

4. 附属明細書

[資料-1]

2019年度研究助成採択者

30名（100万円/年、2年交付）

(50音順、敬称略)

氏名	所属機関	研究課題名
伊藤 貴浩	京都大学ウイルス・再生医科学研究所	代謝リプログラミングによるがん進展制御機構の解明とそれに基づく創薬
井上 毅	大阪大学免疫学フロンティア研究センター	稀少記憶B前駆細胞の同定及びその機能解析
海老原 敬	秋田大学大学院医学系研究科	アレルギー炎症におけるII型自然リンパ球の可塑性
岡本 徹	大阪大学大学院 微生物病研究所 高等共創研究院	HCVコア蛋白質の成熟化機構の解明
荻原 秀明	国立がん研究センター研究所	SMARCB1欠損がんにおける合成致死治療法の開発
小内 伸幸	金沢医科大学医学部	血液細胞分化経路における細胞系列分岐点の決定と急性骨髄性白血病の治療方法の開発
甲斐 歳恵	大阪大学大学院生命機能研究科	一塩基レベル分解能での小分子RNA塩基修飾の解析
金 倫基	慶應義塾大学薬学部創薬研究センター	腸内細菌による食物アレルギー抑制機構の解明
金城 雄樹	東京慈恵会医科大学	抗体産生及び細菌感染防御効果の持続をもたらす免疫学的機構の解明
笹栗 弘貴	理化学研究所脳神経科学研究センター	生体内塩基編集技術を利用した新規遺伝子治療によるアルツハイマー病治療
佐藤 佳	東京大学医科学研究所	シングルセル解析技術を駆使した生体内HIV感染細胞の不均質性の解明
佐藤 美由紀	群馬大学生体調節研究所	PINK1-Parkin非依存的ミトコンドリア分解の分子機構
塩田 倫史	熊本大学発生医学研究所	グアニン四重鎖によるDNA可塑性とRNAエンゲラムの解明
高橋 秀尚	横浜市立大学大学院医学研究科	新規転写伸長制御因子Med26の機能解明と抗腫瘍シード開発基盤の構築
高村 史記	近畿大学医学部	肺における滞在型メモリーCD8T細胞インフレーション機構の解明
滝澤 忍	大阪大学産業科学研究所	ベイズ最適化を活用する創薬シードの効率的探索研究
田中 都	名古屋大学環境医学研究所	死細胞センサーMincleによる炎症遷延化の分子機構解明
綱田 丈二	岩手大学農学部共同獣医学科	聴覚フィードバック療法からせまる吃音症の脳内機構の解明
富樫 庸介	国立がん研究センター研究所	腫瘍浸潤PD-1陽性制御性T細胞は「疲弊状態」にある
花岡 健二郎	東京大学大学院薬学系研究科	近赤外蛍光プローブの開発を基盤としたTheranosticsプローブの創製
早河 翼	東京大学大学院医学系研究科	粘膜増殖帯由来消化管癌の発生機序解析と標的治療～スキルス胃癌を中心に

氏名	所属機関	研究課題名
平林 祐介	東京大学大学院工学系研究科	小胞体-ミトコンドリア相互作用によるニューロンネットワーク制御
福原 茂朋	日本医科大学先端医学研究所	血管新生におけるペリサイトの新たな機能とその破綻がもたらす疾患の病態解明
船戸 弘正	東邦大学大学院医学研究科	過眠モデルマウスを用いた睡眠の脳老化における影響の検討
松本 佳則	岡山大学大学院医歯薬学総合研究科	Toll様受容体に着目した難治性炎症疾患の病態解明と新規治療法の開発
三枝 理博	金沢大学大学院医薬保健学総合研究科	<i>In vivo</i> 多層的活動計測による中枢体内時計の神経メカニズムの解明
柳谷 耕太	九州大学生体防御医学研究所	翻訳の一時停止の生理的役割を研究するため革新的手法の開発
山口 暢俊	奈良先端科学技術大学院大学 先端科学技術研究科	植物細胞をモデルとした老化の基本原理の解明
山下 直也	順天堂大学医学部	神経細胞における逆行性シグナル異常を介したアルツハイマー病発症の分子機構の解明とその治療法への応用
吉田 善紀	京都大学iPS細胞研究所	iPS細胞を用いた骨髄異形成症候群の病態モデル構築に基づく病態マーカーの探索と新規治療法の開発

2020年度研究助成採択者

25名（100万円/年、2年交付）

(50音順、敬称略)

氏名	所属機関	研究課題名
石黒 啓一郎	熊本大学発生医学研究所	減数分裂と体細胞分裂との違いに決定的な役割を果たす因子の同定
井上 飛鳥	東北大学大学院薬学研究科	GPCRキナーゼ (GRK) の選択性原理の解明
井上 貴美子	理化学研究所バイオリソース研究センター	モノアレリックなゲノム編集システムを利用した機能不明なゲノム刷り込み遺伝子の解析
遠西 大輔	岡山大学病院ゲノム医療総合推進センター	腫瘍内シグナルと腫瘍外免疫環境を同時に標的とする難治性悪性リンパ腫の新規治療戦略
小田 賢幸	山梨大学大学院総合研究部医学域	クライオ電子顕微鏡を用いたHIV経皮・経粘膜感染防御機構の解明
垣内 伸之	京都大学大学院医学研究科	網羅的ゲノム解析による原発性硬化性胆管炎の病態と発がん機序の解明
金山 剛士	東京医科歯科大学難治疾患研究所	感染初期に誘導される単球細胞死の病態生理学的な意義の解明
岸 雄介	東京大学大学院薬学系研究科	生体内ニューロンの一生にわたるクロマチン構造変化の解析
桑子 賢一郎	島根大学医学部	ヒト脳オルガノイドを用いた革新的病態モデルの開発と解析

氏名	所属機関	研究課題名
齋藤 潤	京都大学iPS細胞研究所	ヒト神経筋接合部 <i>in vitro</i> モデルをもちいた神経筋接合部疾患の病態解析と治療法開発
指田 吾郎	熊本大学 国際先端医学研究機構	数的染色体異常による骨髄異形成症候群発症の分子基盤の解析
佐藤 政充	早稲田大学理工学術院 先進理工学部生命医科学科	シングルセル遺伝子発現解析の組織への応用に基づく多発性嚢胞腎の発症メカニズムの解明
鈴木 洋	名古屋大学大学院医学系研究科	マイクロRNAによるがん細胞のアイデンティティーの制御とがん免疫
高橋 良太	東京大学大学院医学系研究科	慢性膵炎モデルマウスを用いた炎症性膵発癌の機序解明
武田 憲彦	自治医科大学分子病態治療研究センター	治療応用を目指して心不全の回復プロセスを明らかにする
豊原 敬文	東北大学大学院医工学研究科	細胞内脂質に着目した新たな糖尿病性腎症治療の開発
長島 駿	東京薬科大学生命科学部	オルガネラコンタクトと皮膚老化の関連解明
西山 敦哉	東京大学医科学研究所	DNMT1阻害剤5-aza-dCTPが形成するDNAタンパク質架橋修復の分子機構
林 悠	京都大学大学院医学研究科	神経変性原因物質に着目したレム睡眠の作用とそのメカニズムの解明
原 英樹	慶應義塾大学医学部	インフラマソーム炎症性疾患における病態形成機序の解明と阻害法の開発
細川 裕之	東海大学医学部	T細胞初期発生におけるガン遺伝子PU.1の発現抑制メカニズムの解明
松田 研一	北海道大学大学院薬学研究院	新規ペプチド環化酵素ファミリーPBP-type TEにおける特異性発現メカニズムの解明
宮本 達雄	広島大学原爆放射線医科学研究所	ミトコンドリア機能不全による繊毛病発症機構の解明
山元 淳平	大阪大学大学院基礎工学研究科	生体組織での光遺伝子治療を目指した高効率な光受容人工DNA修復酵素の開発
山本 玲	京都大学 高等研究院	血液細胞系譜ランドスケープを用いた『血液QRコード化』による疾患の診断・予測技術の開発

2020年度PIセットアップ研究助成採択者

6名（300万円交付）

(50音順、敬称略)

氏名	所属機関	職名	研究課題名
石谷 太	大阪大学微生物病研究所	教授	小型魚類イメージングを用いた細胞競合の分子基盤と生理学的役割の解明
伊藤 美菜子	九州大学生体防御医学研究所	准教授	中枢神経系炎症関連疾患における免疫細胞による脳組織修復機構の解明
梅本 英司	大阪大学大学院医学系研究科	准教授	腸内細菌由来の代謝産物、乳酸・ピルビン酸およびその受容体GPR31によるウイルス感染防御の解析
大澤 志津江	名古屋大学大学院理学研究科	教授	がん微小環境を規定する細胞競合現象の遺伝的基盤
栗本 一基	奈良県立医科大学医学部医学科	教授	単一細胞レベルのDNAメチル化計測法と組織学の複合による生殖細胞形成機構の解析
三原田 賢一	熊本大学国際先端医学研究機構	客員准教授	母体胆汁酸代謝による胎児発生制御機構の解明

2019年度海外留学奨学研究助成採択者

5名（300万円/年、2年交付）

(50音順、敬称略)

氏名	所属機関/留学先/国名	研究課題名
荻野 広和	徳島大学大学院医歯薬学研究部 School of Medicine, University of California, San Francisco USA	転移性脳腫瘍における特異的ながん抗原の同定、および脳転移制御を目指した新規がん免疫療法の開発
鈴木 邦道	慶應義塾大学大学院医学系研究科 MRC laboratory of Molecular Biology UK	抑制性シナプスの微細構造的分類と次世代シナプスコネクターによる制御
名西 悦郎	九州大学大学院医学研究院 Boston Children's Hospital, Harvard Medical School USA	次世代アジュバントを用いた新規新生児・小児用ワクチンの開発
松宮 舞奈	京都大学大学院生命科学系研究科 European Molecular Biology Laboratory Spain	体節形成疾患の <i>in vivo</i> 解析系の作製と新規原因遺伝子の同定
溝田 功	三重大学大学院工学研究科 Organisch-Chemisches Institut, WWU Münster Germany	α -イミノエステルの極性転換反応とイミニルラジカル種を活用したカルボニル化合物の α -アミノ化反応の開発およびそれを活用するワンポット創薬研究

2020年度海外留学奨学研究助成採択者

5名（300万円/年、2年交付）

(50音順、敬称略)

氏名	所属機関/留学先/国名	研究課題名
伊藤 謙治	東京大学医科学研究所 Perelman School of Medicine, University of Pennsylvania USA	有糸分裂終了後の娘細胞に細胞の運命が維持・継承されるメカニズムの解明
坂本 悠記	日本医科大学 The George Institute Australia	心房細動を有する心原性脳塞栓症患者の長期転帰改善を目的とした薬物療法の確立
富永 顕太郎	新潟大学大学院医歯学総合研究科 Division of Developmental Biology at Cincinnati Children's Hospital Medical Center USA	低分子化合物による腸前駆細胞へのリプログラミングと炎症性腸疾患における基礎・再生医療への応用
西田 純	東京大学大学院医学系研究科 Dana-Farber Cancer Institute, Harvard Medical School USA	単一細胞解析技術の統合による乳がん脳転移の時空間的不均一性の解明
藤田 幸	大阪大学大学院医学系研究科 Perelman School of Medicine, University of Pennsylvania USA	神経回路の形成と損傷からの修復メカニズムの解明

2021年度海外留学奨学研究助成採択者

5名 (300万円/年、2年交付)

(50音順、敬称略)

氏名	所属機関/留学先/国名	研究課題名
佐藤 浩 央	群馬大学重粒子線医学推進機構 重粒子線医学研究センター Weill Cornell Medicine USA	抗腫瘍免疫反応を促進するがん細胞内分子経路の解明と、新規がん治療戦略への応用
祢津 昌 広	山梨県立中央病院 ゲノム解析センター University of Alberta Canada	ホルモン産生性下垂体腫瘍モデルマウスを用いた、腫瘍増殖とホルモン産生の協調的制御機構の解明
山本 悠	大阪大学蛋白質研究所 Aarhus University Denmark	網膜から上丘への軸索投射における収束シナプス発達機構の解明
城森 啓 宏	北海道大学大学院生命科学院 University of Minnesota USA	非クラスター型ボロシン様RiPPsの生合成における修飾酵素の探索と機能解析
鈴木 将 貴	慶應義塾大学医学部 Harvard Medical School USA	腸内細菌D-アミノ酸による免疫活性化機構の解明